

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

〜縄文・古代史編〜

第16回・縄文以降の日本〜北海道の歴史的分断

北海道には弥生時代がなかったという話をすると驚かれますが、北海道の歴史が本州と決定的に分かれることになるのはこの時代からです。日本列島は、縄文時代の終了までは、多様な生活文化が同時に併存していた社会、現代風に言えば多民族社会でした。もしただ一個の条件―イネの渡来―がなかったら、こんにちとは全く違った社会になっていたでしょう。「私はオホーツク人です」という人が北海道の沿岸にいても不思議ではないですし、公用語もひとつではなく地域ごとに異なる言語が使われていたかもしれません。それほどイネの到来は強烈な出来事でした。

イネは「一粒万倍」ということわざになるくらい実りが多く、そのうえ米だけで食べていけるほど栄養価が高く、このことが小麦を主体とした西洋諸国に比べ、稲作を中心としたアジア諸国が圧倒的な人口密度をほこっている原因になっています。米を保管する高床倉庫を原型として神社が作られたことを考えれば、当時の日本人にとってのイネに対する信仰の深さがわかります。稲作は、田んぼを開墾する土木技術やその実りに感謝をささげる神道といった宗教文化とセットになって、あつという間に日本中に―北海道と沖縄を除いて―広がっていきます。この結果、日本はローラーで一つ文化に地ならしされてしまい、それ以前の文化的多様性を失ったまま現在に至っています。

おもなできごと (日本列島)	本州の時代区分	年代	北海道の時代区分※	おもなできごと (北海道)
櫛の使用がはじまる	旧石器文化	20000年前	旧石器文化	北海道に人が住みはじめる 細石刃文化が広がる
土器の使用がはじまる		16000~15000年前	縄文文化	北海道で土器の使用がはじまる
整穴住居がはじまる 弓矢の使用がはじまる 土偶がはじまる	縄文文化	10000年前	草創期	北海道で土器の使用がはじまる
気候の温暖化 縄文海進			早期	整穴住居がはじまる 石刃鎌文化が波及する 札幌北部の低地が内湾となる
大規模な貝塚が形成される		7000年前	前期	大規模な貝塚が形成される
東日本に亀ヶ岡文化が広がる		5500年前	中期	紅葉山砂丘に人が住みはじめる
		4500年前	後期	
水稲耕作がはじまる	弥生文化	2300年前	晩期	ストーンサークルがはじまる 周堤墓がはじまる 亀ヶ岡文化の影響を受ける
			2300年前	続縄文文化
邪馬台国 前方後円墳がはじまる	古墳文化	1300年前	オホーツク文化	カマド付の整穴住居がはじまる 鉄製品が一般化する 穀類が普及する
仏教の伝来 大化の改新	飛鳥時代			
平城京に都がうつされる	奈良時代			
平安京に都がうつされる	平安時代			
鎌倉幕府がはじまる	鎌倉時代	800年前	アイヌ文化期	土器にかわり鉄網が普及する 平地式住居がはじまる
室町幕府がはじまる	室町時代			
戦国時代	安土・桃山時代			
江戸幕府がはじまる	江戸時代			チャシが築造される

図1. 本州と北海道の歴史年表

(札幌市埋蔵文化財センターより)
 ことなく持続的に発展することが可能となり、「クニ」が誕生しました(弥生時代)。やがて大小のクニが集まり、大和朝廷が誕生します(古墳時代)。その後、

天皇を中心に貴族が支配する時代(奈

イネは連作障害

が起こらず、したが

って集落が移動する

ことなく持続的に

発展することが可能

となり、「クニ」が誕

生しました(弥生時

代)。やがて大小の

クニが集まり、大和

朝廷が誕生します

(古墳時代)。その後、

天皇を中心に貴族

が支配する時代(奈

良く平安時代)続きますが、やがてそれ以前の統治機構を一変させる革命がおきます。関東に多数いた自作民(武士)が武装蜂起し、自分の土地の所有権を主張し、中央政権に歯向いませず。鎌倉幕府の誕生については、平氏・源氏の対立とからめて解釈されることが多いですが、実情としては鉄器の普及により関東平野の開拓が可能となり、実力をつけた自作農家が独立したとみる方が正確です。一“所”懸命という言葉は文字通り、自分が開墾した土地は命を懸けても守るといふ自作農家の気概があふれた言葉で、武士が軍人であるというよりも農家であったことが端的にあらわされています。自分で開墾した土地は自分のものという原則は、その後幕府が何度か交代しても変更されることはありませんでした。江戸時代、幕府にしても諸藩にしても、農家に対して有しているのは租税権だけであり、土地はあくまで農家のものでした。この点は、貴族と皇帝がじかにその土地に住んでいる農奴を含めて土地を所有していた隣国のロシアとは対照的です。お米の取れ高をあらわす石高が藩の大きさを示す単位に用いられていたことを思えば、当時の日本社会と米の関わりが強さがわかります。

一方、北海道と沖縄は気候的制約により稲作が普及せず、狩猟・採集・漁労といった縄文以来の生活スタイルをその後大きく変えることはありませんでした。本州の弥生文化の影響を受け、それ以前の装飾性の強い土器は作られなくなります(続縄文時代)。その後和人との交易も盛んになり、鉄器が普及すると石器は姿を消してしまいます(擦文時代)。この間、オホーツク海沿岸部では大陸から渡ってきたオホーツク人が漁労と狩猟に基盤を置く北方系のオホーツク文化を展開します。当時の北海道は南と北の文化の併存する国際的な表情をのぞかせていました。アイヌ時代になると和人が本格的に北海道の支配に乗り出し、両者の不幸な出会いにつながります。

参考資料 さっぽろ文庫90、「古代に遊ぶ」、さっぽろ文庫編集室(1999)
バックナンバーお届けいたします。ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。ご自宅までお届けいたします。

「編集後記」

くローラーがかからなかった国く

先日スコットランドで独立をめぐる住民投票が実施されました。このニュースを聞いて違和感を持った読者も多いのではないのでしょうか。本稿で述べたように、日本は稲作の普及というローラーでひとつ文化に地ならしされた国です。対照的にヨーロッパにはこのような経験はなく、小麦を作っているところもあれば、ジャガイモを主食にしたり、牧畜・酪農が中心の地域もあります。結果、古代の文化的多様性を現在も色濃く引き継いでおり、地域と国の境があいまいな状態が継続されています。歴史とは単なる過去の出来事の羅列ではなく、現在のあらゆる側面に繋がっているものなのです。歴史的背景を知ればもっとおもしろくニュースを考えることができます。

執筆者：道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球

学科博士課程(古生物学専攻)を修了後、六花亭

に入社。2011年より現職。

◇発行元◇

(有)北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 0120-128-348

FOX: 0120-128-358

◆この連載は毎月1日・15日の北海道新聞朝刊に折り込みしています